

旧大阪商船ビル

この建物は元々、世界的な海運会社であった大阪商船（OSK）の旅客待合所兼事務所であった。1917年に建てられ、1991年に市が購入・復元するまでは支店として使用されていた。

建てられた当時は門司で最も背の高い建物で、その目立つデザインはOSKの広告塔として機能したと思われる。門司が競合の貿易商で賑わう港であった時代には、この建物はひととき目立つ存在であったろうし、現在でも地域のランドマークとして機能している。

ファサードは鉄筋コンクリートにフェイクブリックのタイルで覆われている。屋上のドーマー窓や、ドーム型の尖塔と菱形の装飾を基部に持つ八角形の塔は、20世紀初頭頃にオーストリアやドイツを中心に流行した分ゼツェッシオン様式建築の特徴である。

1階には地元アーティストの展示スペースがあり、その中には神戸生まれ地元育ちの作家であるわたせせいぞうギャラリーがあり、彼のマンガ、広告、イラストレーションなどの作品を展示している。わたせせいぞう（1945-）といえば、1983年に発表された「ハートカクテル」というアメリカ西海岸風のカラフルなポップ・アートと日本の伝統的な風景や設定を融合させたマンガシリーズがおそらく最も有名であろう。

1890年代を紐解く

展示スペースから続く廊下には、門司に数多くあった世紀の変わりめ頃の商社のひとつ、三菱合資会社（現在の三菱商事の前身）のために1896年に作られた1.4トンの金庫がある。ロック機構と文字盤には、アラビア数字ではなく日本語の文字が刻まれている。見学者は、この金庫の鍵を解除し開けることができるか試すことができる。